

週日の説教

金 大烈 神父 2010年11月12日(金)

《毎日・毎瞬間「^{きざ}兆し」はあります》

主の平和

今日の福音(ルカ 17・26-37)も深刻な厳しい怖い内容ですね。その意味を考える前に第1朗読(二ヨハネ 4-9)の最後のところをもう一度見てみましょう。『キリストの教えを越えて、これにとどまらない者は、神に結ばれていません。その教えにとどまっている人にこそ、御父も御子もおられます。』とあります。この言葉に関連して今日の福音を理解してみたいと思います。

さあ、福音の『死体のある所には、はげ鷹も集まるものだ。』これを優しく説明すると日本語では「前触れ」とか「^{きざ}兆し」と言う同じ意味で使う言葉がありますね。私達は色々なことに「兆し」を感じるとか、「前触れ」を感じるとかそのような表現をします。しかし私は今、私達の人生に対して、狭い意味ではなく広い意味で申し上げる事です。自分の“生と死”、そして“生きている今のプロセス”。それを全体的に見ながら、私達はどのくらい神様からの「兆し」とか「前触れ」を感じられたのでしょうか。おそらく皆様は、その「兆し」や「前触れ」を感じたからこそ、このように信仰の生活に努めようと頑張っていると思います。

さあそれでは、その「兆し」や「前触れ」を私達はどのようにして分のでしょうか。知識でしょうか。もちろん、知識によって、科学的な知識とか教育された色々な知識によって、あらかじめ計ることが出来るかも知れません。しかし“生と死、永遠の命”その中で起こる「兆し」はどのように分かるのでしょうか。いわゆる私達はそれを知恵と言います。知恵は本を読んで得られるものではなく、神様から頂くその愛の心、正しく見る心を意味します。

さあ、今日の福音でも、第1朗読でも、簡単に話されています。私達の立場では、キリストの教えをどのくらい理解して、どのくらい従おうとする決心が出来ていて、実践しているかによって、知恵が与えられます。その知恵によって「ああ、こういうことは、多分いけないことでしょう。こういうことは、私達に何かをしてもらいたい神様の御心があるのでしょうか。」という悟りが出来るのではないかと思います。

今の世の中は肯定的にも見られるし、否定的にも見られる世界だと私は思います。皆様はどうですか。この世の中、どうにか上手く行っていると思われませんか。そうではなく、段々悪くなっていると思われるのでしょうか。もちろん、科学的には進んで行けると思います。しかしその中で、大事な、主な主人公である人間の暮らしを考えてみますと、本当に私達は上手く行っているのか、本当に誰が見てもこれは素晴らしいと言える世界で私たちが生きているのかと考えてみますと、やっぱり自信がありません。

今、韓国では、いわゆる世界の 80 パーセントの経済力を持っている 20 ヶ国・地域首脳会議をしています。G 20 というものですね。既に日本を含めて経済大国と言われる国が、そして新たに経済大国の可能性のある国、例えば、中国とか、ブラジル、色々な資源が多い国の代表者が会議をしています。会議はテレビではいい所だけ映されると思いますが、その回りには社会運動する人々が、色々な国から集まって、その会議に反対するデモを行っています。どちらの話聞いてもやっぱりその主張する内容はいい所もあるし、悪い所もあるわけです。

UN に加入している国はどの位あると思いますか。私の記憶では 167。全世界には 200 以上国がありますよね。その中で地球経済の 8 割の富が、その先進国に集中しているわけです。これは、この世の中でちゃんと均衡が取れてないことを意味します。食べ物が溢れて腐って捨ててしまうほどの環境に生きている人々もいるし、一食食べるのに命を掛けて苦労している人々がいるということにもなります。そういうことを神様の目で見たら、どのくらい辛い気持ちになるか考えてみますと、カトリック信者である私達もその「兆し」を読めなければなりません。ある意味で「死にたい」という状況になっているかも知れません。そこには、はげ鷹が、からすが、色々な腐ったものを食べるために集まるものがあることを、私達は意識しなければなりません。そういう意味で、私達が毎日毎日、日用の糧を頂けることに感謝しながら、共に、それが与えられていない人々を思い出し、どのようにすれば知恵ある振舞が出来る心になるか黙想する必要があると思います。

皆様、韓国のソウルに集まっている 20 カ国の代表者達は、世界の経済がどうすれば上手く行くか、アフリカの貧困の問題、南米の貧困の問題、色々な自然災害の問題、そのような全ての問題を話し合おうとしていると思います。それが正しく話し合って、正しい分配が出来るような世界になれば私達は賛成するべきです。しかし、裏で欲を持ちながら、自分達の国の利益のために、結局争いになってしまうと、それはもっとひどくなる可能性があることを意識しなければなりません。

皆様、今日のような福音を読んだ時に示唆性がある、いわゆる社会的な示唆性があるそういう所にも、私たちは触れ合おうとする心が必要ではないかと思います。皆様、“毎日・毎瞬間「兆し」はあります”。それは、見ようとする心、見ようとする人だけに見えることを意識しましょう。

ありがとうございました。

